

平成31年度 狛江市立学校第三者評価委員会 報告書 概要版

1 狛江市立学校第三者評価委員会委員

【委員】

委員長 帝京大学大学院 教授	坂本 和良
委員 調布狛江地区更生保護女性会会長	愛甲 悦子
委員 元八王子市教育委員会教育委員	大橋 明
委員 元読売ジャイアンツ監督	堀内 恒夫

【事務局】

狛江市教育委員会教育部理事兼指導室長	小嶺 大進
狛江市教育委員会教育部指導室統括指導主事	坂本 尚毅

2 第三者評価実施概要

- ◆ 平成24年度までは全小中学校を毎年評価対象校としていたが、平成25年度から全校を中学校区によって2グループに分け、5校ずつを隔年で評価することにより、短期的な評価に加え、2年間のスパンで中期的な評価を実施することとした。
- ◆ 評価を焦点化するために、「学力向上の視点」「特色ある教育活動の視点」からそれぞれ評価の視点を学校ごとに決定し、その観点にそって重点的に評価を進めた。
- ◆ 評価委員による学校訪問を年2回実施し、1回目に評価の観点における各校の課題の確認、2回目にその課題に対する取組状況や改善内容を確認することで、より学校の実態に沿った評価を推進した。

3 平成31年度評価対象校及び評価の観点

学校名	評価の観点① 学力向上の視点	評価の観点② 特色ある教育活動の視点
狛江第一小学校	思考力を高める授業の工夫としての対話の時間の適切な設定	人権尊重教育推進校として、児童の人権感覚や人権意識を高める指導
狛江第五小学校	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の工夫 - 論理的思考力の向上を目指して-	学校支援地域本部の取組の充実
緑野小学校	思考力・判断力・表現力の育成	共に生きる子の具現化
狛江第一中学校	社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの充実を通じた生徒の学力向上	生徒の自尊感情の高揚を通じた、育てたい生徒の姿「挨拶・時間・美化の実践力」の育成
狛江第四中学校	生徒が「考える」授業づくり	道徳教育の充実 「考え、議論する道徳」を通して生徒の人間性を育成

4 狛江市立学校第三者評価委員会の経過

(1) 事務局によるヒアリングと評価の観点の決定

令和元年6月 会場：各学校

(2) 第1回学校訪問

令和元年6月4日（火）～令和元年7月11日（木） 会場：各学校

(3) 第2回学校訪問

令和2年2月10日（月）～令和2年2月20日（木） 会場：各学校

(4) 第3回まとめ

令和2年3月25日（水） (開催中止)

5 総括

(1) 学校評価を生かした学校経営

ア 総括

校長の学校経営計画とともに、教育課程が全教職員に共有され、これを基にして各学校の教育活動が展開されているということを一人ひとりの教職員が認識できるようにする必要がある。

また、各教育活動の明確な目的を再度捉え直し、働き方改革の視点を交えて、教育活動の精選を図っていくことも考えられる。

イ 補足意見

学校教育目標と目指す学校像、児童・生徒像との関連を明確にするとともに、育成する資質・能力を明確にする必要がある。

(2) 学力向上

ア 総括

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を図るためには、言葉だけではなく、それぞれの学びの姿を学校教育目標から捉え直すとともに、単元を通してそれぞれの学びが成立していくことを、各学校における校内研修等で再確認する必要がある。

イ 補足意見

一人ひとりの子供が学習課題に対して自分の考えをもつことができるようにする手だてを工夫する必要がある。

(3) 人材育成

ア 総括

OJTを推進するためには、各教員に期待することや、職層に応じて担わせる役割を具体的に示していきたい。その役割に応じたOJTの実施により、自己の職層の役割について理解を深めることや自信をもつことにもつながっていく。

イ 補足意見

若い教員が多いので、中堅・ベテラン層の教員との意思疎通が少し不足しているとの話があった。これを解決するためには、中堅・ベテラン層が若い教員の立場に立って考えてみる必要があるのではないか。

(4) 教育委員会の支援

新学習指導要領については、小学校では次年度から全面実施に、中学校では移行措置期間の最終年度となる。教員一人ひとりが、改訂の趣旨やポイントを理解し、自分の言葉で説明できるようになることが求められることから、研修会、指導室訪問等の機会を活用して新学習指導要領の改訂の趣旨やポイントを周知するとともに、教員が自己啓発したり、校内でのOJTが活性化するよう各学校に指導・助言したりする必要がある。

6 各学校における主な評価

【狛江第一小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人権教育に関わって、教科等横断的な視点での教育課程の編成を行うとともに、児童の人権感覚、人権意識を高め、具体的な行動へ結びつけられるとよい。 ◆ 自分の考えがもてない児童への指導の在り方を全校的に研究することが大切である。 ◆ 対話をする必要感や必然性を児童にもたせる手だてを全校的に研究し、対話するよさを児童に感得させることが大切である。
【狛江第五小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校支援地域本部の活動表を作成することを通して、教科等横断的な視点でのカリキュラムが作成されており、具体的になってきている。コーディネーターとの関わりについて、円滑に行うための工夫を発信してほしい。 ◆ 来年度に向けては、国語力の育成を目指し、教科等横断的な教育課程の編成を意識して行うことが大切である。 ◆ 学校評価アンケートは、プログラミングの学習について、否定的な回答を少数ながら正直に回答している児童がいる。これは貴重な資料であり、今後を生かせることよい。
【緑野小学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 思考力・判断力・表現力を育成するための学習課程の在り方について、校内で共通理解を深めることが大切だと考える。(特に個に応じた指導の在り方、課題と既習事項等を結び付けるための手立て等) ◆ 「共に生きる子」の具体的な姿を明らかにする必要がある。それを授業の中で追究することが大切である。 ◆ 楽しさの中にも教科のねらいをきちんとおさえた指導についての校内研修を計画することも考えられる。
【狛江第一中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自尊感情を高めるためには、イベント的な取組だけではなく、教科等横断的な視点で教育課程を編成することが必要である。 ◆ 生徒の成功体験は重要だが、全員が必ず成功できるわけではない。失敗を受け入れることは、生徒にとって難しいことだが、是非継続して成果を出してほしい。 ◆ 校内研究の一環としての、「授業実践期」の実施はよい取組である。授業改善については、さらに推進していくことが大切である。
【狛江第四中学校】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまでの学校行事を変えることが、新しい四中の魅力をつくるという考えはよかった。エクセルの事務処理をソフト化し、職員で共有しているとのことで、効率的な業務を期待する。 ◆ 道徳を教育課程の柱とするなら、すべての教育活動との関連を整理し、全教員がカリキュラム・マネジメントの重要性を理解できるよう指導する必要がある。 ◆ 教材が面白いと生徒もよく考えるということが分かった。ただし、解答方法の発想を重視するだけでなく、論理的思考力を鍛える場面にも期待したい。